



小島友実の あの馬の STORY



馬房では触らせ放題というファビュラスギフト。担当の濱田さんからとても可愛がってもらっていました。

ファビュラスギフト

今回、紹介するのは、昨年3月に開業した武英智厩舎に所属するアーリーブーストです。お母さんのアーリーブーストもかつてグリーンフターとして所属し、5歳の秋まで活躍した馬でした。

武調教師はこの馬を初めて見た時の印象から入厩までの過程を語ります。

「アーリーブーストを初めて見たのは一年前の夏です。動きが素軽く、扱いやおもづな馬だなと感じました。まだ垢抜けて前だったのに少しでもぐらねぐらしがねじれ方が、競走馬として成長段階ひとりの印象でした。それが、牧場へ見に行く度に馬が変わつてこぎ、成長力を見せていましたね。育成は順調で、昨年4月末に栗東へ入厩しました」

その時の馬の雰囲気はどうだったのでしょうか。

「垢抜けた、シルエットが綺麗になつて、競走馬らしい体になりましたね。良化度が速いと感じました。ゲート試験も1回で受かりましたし、調教の動きから自分が合った印象で、僕のイメージでは1歳0ヶ月から4歳0ヶ月でしたが、最初は競馬を覚えたかった意味で、他の馬の阪神芝1600mなどで「アーリーブーストの初戦は逃げの4着でした。

「阪神の直線の坂が少し堪えた感じ、イルはギリギリな感じでしたね。あと人間がいるので、あえて余裕を少し持たせた状態で仕上げていました。その状況で好内容の4着ですから、数戦以内で勝ち上がれただし思いましたね」

「戦田は3着で、戦田は距離が1400mだと短縮されました。

「迷ひて思つたようなペース」でを見せて貰いました。結果として4着に負けてしまったのですが、勝ち馬は阪神芝1600mで、しかもかわいいグリーンフターとして所属していますが、勝ち馬がアーリーブーストで、相手が強かったです。あのペースで5歳の秋まで活躍した馬でした。

武調教師はこの馬を初めて見た時の印象から入厩までの過程を語ります。

「アーリーブーストを初めて見たのは今年1月に帰厩しましたが、右前球節部に骨折を発症し、休養に入りました。骨折は軽微で手術は不要とのことで、昨年12月に帰厩。4戦目は今年1月の中京芝1400mで出走しました。

「かなり前進気勢がでていて、動きが良化。復帰初戦から良い走りを見せて貰いました。未勝利はすぐには上がり、それが4戦目で決まりました」と

結果は8着でした。

今後の展望を伺いました。

「武豊騎手は龍走後、「アーリーブーストは未勝利ならず順番が回りついで1200mの方が多いかも」と言つてくれていました。トドが綺麗で本来は芝向きの印象ですが、ターミが合わない事はな

どありました。ゲート内で硬直してしまい、本來はスタートの良い馬が立ち遅れてしましました。直線ではなくかなか前が開かず、最後は伸びついたものの、かばはぐな競馬になりましたし思いましたね」

4戦目の後は厩舎で調整。担当の濱田

傑持ち乗り調教助手に伺つて、「アーリーブーストはいいところがあるけれど、普段の調教では伸びきらないよつた関節などを伸ばせるから良くてですよ。馬房では基

本的に大人しいで、触られても喜んでいます。応援ありがとうございました」

(取材・1月30日)

（以下略）

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（主婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。

profile